

「新しい生活様式」に即した今後の認知症サポーター養成講座について

◎ 一人ひとりの感染対策徹底が必要

- 受講者同士の間隔をできるだけ2m(最低1m)空ける。
⇒「3密」の回避(密集、密接、密閉)
- 講師であるメイトとの間隔をできるだけ2m空ける。(もしくは受講者との間にアクリル板等を設置する。マスクの上からでも、フェイスシールドの着用を検討する。)
- 会場の使用前と使用後に机やイス、ドアの取っ手など受講者が触れるところはアルコール消毒を行う。
- 受講前に全員体温測定し、発熱や咳など風邪の症状がある場合は無理せずに受講を取りやめる。
- 受講前及び受講後、手洗いは 30 秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗い、十分に洗い流した後、よく拭き取って乾かす。
- 開催前には2方向の窓を全開・扉を開けて換気(30分に1回換気)を行う。
- 受講者、講師、開催者(スタッフ)は、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。
- 夏場は熱中症にならないようこまめに水分補給を行い、開催者(スタッフ)は、受講者の状態確認に気を配る。
⇒めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、頭痛、吐き気などの症状が聞かれた場合は、涼しい場所への移動、首筋や脇、足の付け根を冷やし、水分補給を促す。
- 後日、健康状態を確認できるよう受講者の氏名、連絡先を取得する。
⇒感染者が発生した場合に、参加者全員に連絡をするため氏名・連絡先を取得する。

上記注意書きは感染を完全に防ぐものではありません。

開催者の責任の下、不急の講座に関しましては開催をお控えいただき、延期またはオンライン講座も検討いただきますようお願いいたします。